

熱田区における災害対策委員の活動について

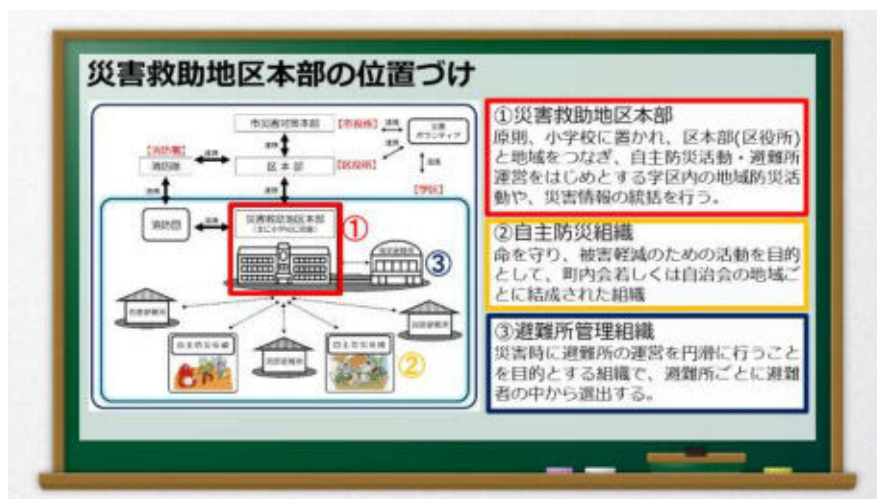
災害対策委員は、災害対策に関して名古屋市と地域との橋渡し役として活動していただく方たちで、地域の実情をよく把握されている区政協力委員の皆さまに兼務をお願いしています。

市内で約 5,500 人、熱田区では 151 人の方が名古屋市から委嘱を受けて活動しています。

1 災害対策委員の役割は？

普段は、災害が起こった時に円滑な活動を行うため、安否確認や避難誘導、避難所運営についての検討や訓練を行っています。令和 3 年 9 月には熱田区にお住まいの全世帯を対象とした「熱田区まるごと安否確認訓練」を実施しましたが、その際に中心となって活動していただいたのも災害対策委員の皆さまです。

そして、いざ災害が起こった時には、小学校区ごとに設置される災害救助地区本部の一員として、区本部（区役所）と地域をつなぎ、自主防災活動・避難所運営をはじめとする学区内の地域防災活動や、災害情報の統括を行います。



2 なぜ災害対策委員が設置されたのか？

昭和 34 年（1959 年）の伊勢湾台風発生当時、地域住民による防災体制は確立されていませんでしたが、当時の社会協力委員（現：区政協力委員）が、被災住民への対応を実施し、復興に寄与したことから、本市の災害対策に関して、

市民と密接な連絡を確保し、地区の防災救助の万全を期すことを目的に昭和35年（1960年）5月に設置されました。



昭和34年（1959年）10月 浸水2週間、いまだ濁水に浮かぶ南陽小学校茶屋分校

3 災害対策委員の課題とは？

災害対策委員の活動の基盤は町内会となります。

平成26年度に本市が実施した「地域コミュニティ活性化に関する調査」における市民アンケートでは、9割の方が“地域の人々のつながりやまとまりが必要”と回答しており、町内会・自治会が必要と思う観点については、8割近くの方が“災害時の助け合いのために必要”と回答しています。

その一方で、少子高齢化の進行や単身世帯の増加、住民の価値観が多様化したこと等により、住民同士のつながりが希薄化し、町内会の加入率の低下が問題となっています。また、町内会の皆さまからのご意見では、地域活動を行う上でのお困りごととして、「役員のなり手がない」と答えた方が7割近くと最も多くなっています。

4 区役所からひと言

近年、台風や豪雨などの災害が激甚化、頻発化しており、より充実した災害対策を求められております。区役所だけでできる対策（公助）は限られていますが、災害対策委員の皆さまと連携することで、より大きな力を発揮することができると考えています。

このウェブサイトをご覧の皆さまもぜひ町内会活動にご参加いただき、災害対策委員の皆さまの活動を支えていただければと思います。

災害対策委員 インタビュー

船方学区一番東部第二町内会 中島久元会長



災害対策委員の皆さまがどのような活動をしているのか、現在船方学区一番東部第二町内会の会長として、災害対策委員の活動をされている中島さんにお話しをお伺いしました。

－ 災害対策委員になられて何年目ですか。

8年くらいになります。

もともと熱田区に実家がありましたが、大学進学の際に実家を離れ、そのまま関東に暮らしていたのですが、両親が他界してから実家に戻ってきました。それからすぐに町内会の組長になり、次に町内会長（災害対策委員）になりました。

会長になった当初は右も左もわからない状態でしたが、学区の委員長や周囲の方たちからの助力で何とか今までやってこられました。

－ 災害対策委員として、普段どのような活動を行っていますか。

私たちの町内会では、「助け合いの仕組みづくり（高齢者や障害者などの災害時要支援者を災害時に支援する取り組み）」を進めており、要支援者の把握や支援計画を作っています。

以前は取り組みを進めるための会合や訓練を頻繁に行っていましたが、コロナ禍のためそれが難しくなっています。ただ、普段から町内会の副会長や会計とはメールなどで情報共有するように努めています。

町内会長としては、学区単位での会合や青パトの巡回、いろいろなキャンペーンへの参加などで忙しくしています。

－ 活動を行っている中で、大変だと感じることはありますか。

災害時要支援者は町内にすぐに見つかりますが、災害時に支援に回ってくれる人（サポーター）が足りていません。隣近所どうしで助け合いをする、という仕組みが理想ですが、現代では隣近所に要支援者しかいない、なんてこともよくあります。

防災は、地域の総合力で取り組むべき課題です。私としては、町内にある介護事業所や、町内会の役職を退いた人たちにも協力してほしいと思っています。

－ 活動を行っている中で、うれしかったこと、やりがいを感じることはありますか。

「助け合いの仕組みづくり」を町内会で始めることになり、要支援者宅を訪問した際に、“こういうのを待っていた。災害が起こったらどうしようかと今まで不安で仕方なかった”と言われ非常に励みになりました。また、こういった活動を新聞やテレビにも取り上げてもらい、住民の皆さんにも活動内容を知ってもらうことができました。

また、去年の9月に行った「熱田区まるごと安否確認訓練」では、町内会の組長さんたちがどこまで動いてくれるか不安でしたが、こちらが思っていた以上に積極的に動いてもらえて、とても頼もしく思いました。

－ ご自身の中での、活動の目標はありますか。

今後、サポーター制度を整えて要支援者ひとりひとりに「個別支援計画」を作成し、本当に災害が起きた時でも機能する仕組みにしていきたいと思っています。

－ ウェブサイトを見ている人たちにお伝えしたいことはありますか。

町内会の活動は、普段の生活からでは見えてこないかもしれませんが、防災についても真剣に取り組んでいることを理解していただきたいです。

今、私たちが取り組んでいる「助け合いの仕組みづくり」は、隣近所の人たちとのあいさつや声掛けなど、日常のコミュニケーションから始まります。皆さまも、まずはそこから大事にしていきたいと思います。

－ 本日はありがとうございました。

聞き手：熱田区役所防災担当